

700系の軌跡

18期 N・K

私が一番好きだった電車、「700系新幹線」が2020年3月8日をもって約21年に渡る運行に幕を下ろしました。私の幼少期の頃から祖父母の家に帰る際に東海道新幹線には大変お世話になっていましたが、その中でも特に、700系が好きでした。カモノハシの愛称で親しまれている先頭車の形や、行き先表示の方向幕が回転する方式をとっている部分に何か古さから生まれる温かみを感じていました。今となっては珍しい丸みを帯びた車体や、鮮やかなこだまの「青」、ひかりの「赤」、のぞみの「黄色」は私の心までも温かくしてくれました。

そんなみんなに親しまれた700系は1999年(平成11年)3月13日に「のぞみ」で運転を開始し、スタンダードな車両として「のぞみ」から「こだま」まで幅広く運用されました。最高運転速度は東海道区間で270km/h、山陽区間では300系の270km/hを超える285km/hでの走行が可能で、300系よりも天井を高くした車内など、ゆったりと静かな空間を実現しています。当時の700系製造を手掛けた方はコンセプトについて、「ただ速ければよいと言うことではなく総合的に車内も静かにし、環境にも優しい整合性を取った物がこの700系です」と語っていました。



浜松駅にて撮影(C編成)



品川駅にて撮影(B編成)

元々、700系は、快適な車内環境の提供、環境への適合、車両性能の向上、トータルコストの低減を目指してJR東海とJR西日本が共同で開発した物で車両もJR東海が所有するC編成とJR西日本が所有するB編成があります。

それぞれの特徴を紹介します。

B編成

車体側面の行き先表示がLED、パンタグラフカバーが白色、1、16号車の先端部にJR700のロゴ入り、テーブルは側面収納式など。

C編成

車体側面の行き先表示が幕回し式、パンタグラフカバーがグレー、テーブルは前席の後ろに

あるなど。

東海道区間を利用することが多かった私は、特に C 編成に愛着心を持っていました。C 編成の車内放送の音楽として使われていた AMBITIOUS JAPAN は新幹線の旅をより楽しませてくれる物でした。



(C 編成)



(B 編成)

今は C 編成や B 編成を見ることはできませんが、山陽区間では、ひかりレールスターやこだま号として 8 両編成の E 編成が、月に数回ほどドクターイエローが走行しています。E 編成と呼ばれる 700 系 7000 番台には様々な種類のシートがあり、その中でも最も特徴的なのが「個室」です。ひかり運用の際のみの販売ですが、新幹線の旅をより楽しむことができます。今でも B・C 編成とは少し違った車両を楽しむことができるので、是非乗って、見て、撮ってみてください。

参考文献

JR おでかけネット [<https://www.jr-odekake.net/train/Nozomi/>]